

グループホーム「仲間館・絆」

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		「心こそ大切なれ、地域の一員として助けられたり、助けたり の輪を広げよう」との理念を掲げ、入居者の心に寄り添える介護を目指して、日々努力している。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		毎日朝礼で理念を唱和し、一日の生活行動を話し合っ て理念の実践に取り組んでいる。地域の介護保険のない方々にも、水曜会と名して週に一度、場所を提供し、リハビリ体操やゲーム等をしていただき、1日楽しく過ごしていただいている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に した理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう 取り組んでいる		施設に来られる方々にも、よく見えるところ(玄関横のラウンジで一番目立つ所)に掲示して、分かりやすく説明している。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		玄関入口に「お茶でもいかがですか？どうかお気軽にお立ちより下さい」という看板を設けて、気軽に立ち寄ってもらえるよう努めている。その看板を見た地域の方がグループで訪問され、お茶や見学をして帰られました。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		地域の草取り作業や缶拾い、餅つき大会等に参加させていただいている。町内の行事に参加できなかった時は、賞品を届けてくださったり、当ホームからは寄付等をして交流を深めている。 町内では、ご近所の方から採れたての野菜をいただいたり、空き缶等の処理等をしていただいたり の日常のお付き合いはできているが、これからはその波動を地域に広げていく取り組みをしたいと考えている。

グループホーム「仲間館・絆」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在、週1回の水曜会であるが、大変喜んで集まっていたので、更にこの輪を広げていきたいと話している。		地域では、お祭りがないので、当ホームの秋祭りには地域の高齢者が自主的に踊りやカラオケ等に参加され、楽しんでいただいている。地域の一人暮らしの高齢者の情報を得て、安全確認等のお手伝いをしたいと話している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価資料を全職員に配布し、皆で討議し取り組んでいるが意義を理解出来ない職員もいる。		毎日の生活支援のみに流されず、意義を理解し、評価を活かしてスキルアップを目指したい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の現状や状況を報告し、委員の方からの助言や意見、要望などを取り入れ、サービスの質の向上に取り組んでいる。		本年度は回数的にも充分でなく、外部の方の協力も少なかったため、これからはもっと充実をしたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	迷った点、相談がある時には、市役所の担当職員によく相談している。又、グループホーム会にも市の職員がおられるので、そこでもわからない事などを質問し、質の向上に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者や一部職員は理解しているが、全職員が理解しているという状況ではない。		全職員が理解し、ご家族に説明を行えるように取り組んでいきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修会に数名参加して、ミーティングの際に研修報告などを行い、職員の理解を深めている。		

グループホーム「仲間館・絆」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	職員2人で対応し、説明の漏れがないように努めている。利用者や家族の質問にもわかりやすいように説明し、理解して頂けるように心がけている。		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	利用者が一番話しやすい職員に意見、不満など言われる事が多いので、管理者報告後、職員で話し合い意見交換をし改善するように心掛けている。		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	暮らしぶりや、日常の生活、様子を知ってもらう為、月間利用状況報告を1ヵ月分にまとめ、郵送している。面会時に写真を見て頂いたり、普段の状態や経過を伝えるように心掛けている。		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	苦情箱を設置している。ご家族からは管理者やスタッフへ直接相談がある事が多い。無理なことは丁寧にお断りし、なるべく意見を取り入れ運営に反映させている。		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	利用者の状況により、一日の流れの時間の変更や利用者の要望、職員の要望により外出や外食等を行っている。		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	利用者や家族の状況の変化などに対応し、病院受診等、一番把握している職員を配置したり、柔軟な対応が出来るように職員間で話し合い、勤務調整に努めている。		職員が足りない時期もあったので、個別のサービスに対応できるよう余剰人員を常に確保するようにしている。
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	職員と馴染みの関係が保たれるよう、異動などは最小限にして、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

グループホーム「仲間館・絆」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>職員の募集、採用にあたっては、年齢や性別を問わないようにしている。個別に悩みや相談に応じて、働きやすい職場作りに取り組んでいる。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>定期的な職員会議の中で、利用者の人権等について話し合い、ケアの方針、統一に取り組んでいる。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修等については、職員に積極的に呼びかけ、研修を受ける機会を確保している。(2級ヘルパー研修含む)時折、法人内での研修も行ない、育成に努めている。(日常的な部分では必要に応じ先輩がついて、個別のトレーニングを行っている。)</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>事業者協議会部会へ参加しているが、法人外との交流はあまりない。</p>		<p>研修会や交流会などの機会にネットワーク作りや、相互訪問等を働きかけ、サービスの質を高める取り組みをしていきたい。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>入居者に適切なケアを提供していくために、職員がストレスをためないように、個別に悩みや相談に応じ、コミュニケーションをよく取るようにしている。外部の研修等も受けている。</p>		

グループホーム「仲間館・絆」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	自主勉強をし、月末までにレポート提出をすれば学習手当てがつくようにしている。個々の努力や実績に応じて、面接をして昇給制度をしている。初心に戻り、マニュアルを再度見直しするような取り組みをしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	ご本人様の要望や思い等を傾聴するようにしていくため、入居前に何度か機会を設け、雑談等を交えながら親しみの関係をつくれるようにし、不安の除去に努め、アセスメントを取るようになっている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	家族が困っていること、不安な事、求めている事をよく聴き、共感し、「その方にとって何が一番いいのか。」と一緒に考え、信頼関係が築けるように努めている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	小さな事でも聞き逃さず、「その方にとって、今、何が 필요한のか」を第一に考え、家族の協力を得ながら、家族と職員で話し合い、段階的に取り組んでいる。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	25で記載した取り組み等を重ね、一日体験利用をして頂きながら、職員の顔、場の雰囲気に馴染んで頂けるよう取り組んでいる。		
い				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員がわからない事(梅干、漬物の漬け方)など教えて頂き、助けられたり、助けたりの関係を大切にしている。一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共有し、支えあう関係を築けるよう取り組んでいる。		

グループホーム「仲間館・絆」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様との面会后、ラウンジに招き、お茶を飲みながら雑談等をしてストレスが溜まっていないか汲み取るよう努め(傾聴)、ご家族が相談しやすい環境をつくっている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	今迄のご本人とご家族の関係や情報をお尋ねし、共により良い関係が続けられるように支援している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が連絡して欲しいと言われた友人の方に連絡して、面会に来てもらったり、思い出の場所に連れていったりして、支援に努めている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	認知症が進めば会話が成り立たなかったり、口論になったりのトラブルが発生することもあるが、その時は職員が中に立ち、橋渡しをしている。レクリエーションを通じて入居者同士の会話も増えている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院等で退所になった方については、時々ではあるがお見舞いに行っている。又、ご家族も当ホームに訪問して下さっている。		年賀八ガキや暑中見舞、行事の案内の葉書を出して、交流を図っていく。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、言葉、表情、顔色、動作等から、一人ひとりの思いや、暮らし方への希望、意向の把握に努めている。意思の疎通が困難な利用者に対しては、表情や会話、ご家族の話の中から、少しでも多くの情報を収集し、本人の意思に添うようになっている。		

グループホーム「仲間館・絆」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴や馴染みの暮らし方、サービス利用の経過等を職員全員で共有、把握し、日常の支援に活かしている。喫煙者においては、禁煙させるのではなく、過去の生活習慣を尊重している。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ホームに於いて、利用者の今迄の生活ペースを守ると共に、残存能力を活かして頂ける様に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族からの意見、本人に傾聴したこと、主治医の意見書、看護サマリー、ケアスタッフからの意見等を反映させ、介護計画を作成している。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の見直しと共に、状態の変化があった時は、本人、家族、職員、主治医からの意見を収集し、話し合いをして作成している。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録(気づき等)を詳細に記入して、問題点が出てきた時は、その時点で職員間で話し合いをして、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個別に「お寿司を食べたい」という要望、通院や法事等で家族の送迎が出来ない時、要望があれば送迎をする等、柔軟に対応している。		

グループホーム「仲間館・絆」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	図書館等にこちらから出向くのではなく、市役所をお願いをして、本の配達等のサービスをお願いしたりの支援をしている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今迄、必要性がなかったが、必要性が発生した場合、話合っていきます。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今の所、必要性が発生していなかったが、必要性が発生した場合、協働させていただきます。(本人及びご家族の要望があり、金銭管理を社協をお願いしているケースが現在1件あります)		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族に、今までのかかりつけ医か、当ホームの協力医院での診療を希望されるか決めていただき、往診時には看護師または介護職が付き添い、医院及びご本人が安全できるよう支援している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	CMの資格を持った医師をお願いをして、指示や助言をいただき、情報交換等行っている。又、認知症の専門病院への受診支援も必要時行なっている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当ホームの看護師、協力医院の看護職とは気軽に相談ができて、介護職員も安心して対応ができています。又、24時間迅速に相談、助言できる体制を取っている。		

グループホーム「仲間館・絆」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>利用者が入院した時は、なるべく多く病院に出向き、認知症が進まないように医師及び看護師との話し合いを設け、早期退院できるよう支援している。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化になった場合、ご家族のご要望があれば連携を取っている特別養護老人ホームへの移設を支援している。終末医療については、認知症がひどいため入院拒否された利用者の看取りを、ご家族の要望で「最後まで人間らしく」との方針で、ご家族、職員一体となって行なっている。</p>		<p>関係者全員が、理解情報を共有できるように取り組んでいる。</p>
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>主治医に相談、協力を得ながら、緊急時の対応の仕方を徹底している。職員間では、細かい申し送りを行なうようにしている。</p>		<p>関係者全員が、理解情報を共有できるように取り組んでいる。</p>
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>出来る限り、馴染みの使い慣れた家具などを持って行かれるようにし、なるべく元のその方の部屋に近くなるように、家族と話し合い、住み替えによるダメージを防ぐように努めている。新生活の場へ詳しい情報の提供をするようにしている。</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>人格を傷つけないよう、声掛けに注意を払っている。又、個人情報に於いてもプライバシー等、守秘義務を守っている。</p>		

グループホーム「仲間館・絆」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	難聴の方や性格的に内気な方等に対しても筆談を行ったり、心を開いて頂くような声掛けにて、自己決定を促すよう働きかけている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の方の今迄の生活を大切に無理強いする事なく、意向を取り入れ支援している。時間の流れに於いては、職員の都合でなく、利用者のペースに合わせていくようにもっと努力していこうと思っている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣類を買う時は、馴染みの店に連れて行き、利用者の好みを取り入れて選んでいただいている。美、理容室においても希望を聞き、本人好みのヘアスタイルをして頂いている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に下ごしらえをしたり、味見や盛り付等の食事の準備や片付けをしている。肉が苦手な利用者には、魚を出したり等の努力をしている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の好みに合わせて対応している。タバコについては、喫煙場所を設けてスタッフ見守りのもと、喫煙をしていただいている。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の失敗が多い方は、時間毎のトイレ誘導などを行い、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を把握し、気持ちよく排泄できるよう支援している。		

グループホーム「仲間館・絆」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1F、2Fにユニットの浴室があり、同時にお湯を出すと最後はお湯が出なくなってしまう為、1F週3回、2F週3回入浴予定を組んでいる。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中はコミュニケーションや生活レクリエーションを行ない、散歩や買い物等の外出を心掛け、夜間は安眠して頂けるよう取り組んでいる。又、昼間はベットに横になって頂いたり、ソファで休息していただいたり、休息できるよう支援している。		
あだく				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が昔されていた仕事、得意な事等を活かして、グループホーム内で出来る仕事を生活リハビリとして、その方に合った役割を持って頂き、日常的に支援している。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの力に応じて、サイフを自分で持ち金銭管理をされている方もいれば、全く出来ない方もいるので、レジの前でお金を渡してなるべく自分で払ってもらおうようにしている。お金の大切さや、安心感を持って頂く支援をしている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外食をしたいとの希望時には、個別に対応をしている。全体では、たまにバイキング料理を食べに行っている。(例：おひな祭りの日等) 買い物の希望がある利用者には、調整のつく日に職員が付き添い、外出支援をしている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年に2度(2泊3日の旅行 1回、日帰り旅行を1回ずつ計画)、希望者を連れて行っている。個別にお墓参りに連れて行ったりしている。		

グループホーム「仲間館・絆」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望にて家族へ電話したいとの申し出があった際、自分で出来る利用者には、なるべく自分でして頂くように支援している。(但し、状態により、医師、家族との協議で電話を掛けさせるのを中止にすることもある)		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問して頂けるよう行っている。また、長居されても良いように応接室等を設けている。申し出があれば、昼食等を準備し、食事を摂ってもらったりして楽しく過ごしていただけるよう工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないとの理念を掲げ実践している。研修の資料をもとに、ミーティングで全員が理解し、徹底している。スタッフ間が同一レベルで身体拘束をしない介護ができるよう取り組んでいる。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の施錠はない。職員の理解があり、鍵をかけないケアを実践している。工夫として、職員の見守りや利用者の外出傾向を把握し、対応している。又、安全の為に入り口にチャイムを設置している。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	目配りや気配りをしながら、声掛けや安全の確認を重視して、見守りを行なっている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	異食をされる方は現在いないので、危険と思われる漂白剤等は見えないところに保管しているが、手指消毒等の容器は下駄箱の上に置いて使用してもらっている。ハサミは先の丸いのを使用してもらったり、職員が安全確認をしながら見守りをしている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	カンファレンスで事故報告書やヒヤリハットの書類を使い、事故防止の学習をし、事故防止に取り組んでいる。(例：転倒等の事故を防ぐために整理整頓、環境整備を行ったり、誤薬防止のためスタッフ2名にて服用確認をしている。		

グループホーム「仲間館・絆」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	各利用者の部屋に緊急連絡先や受持ち医の電話番号を掲示している。事故防止マニュアルを作成し、事務所に掲示している。年に一度、救命講習を受講している。		定期的に訓練を行なっているが、一部の職員はまだ不十分である。引き続き訓練を行なっていきたい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練及び避難訓練を実施し、地域の方や消防団の方々へも日頃から協力をお願いしている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一人ひとりに起こり得るリスクを家族に説明し、理解して頂き、数名に同意書などを頂いている。利用者がのびのびした暮らしができるように支援している。		これから先、リスクが出てこられる方もあると思うので、引き続き取り組んでいきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルサインチェックをし、体調の変化や様子の変化を見逃さないようにしている。又、目配り、気配りを大切にして、異常時には様子観察を行ない、必要時には病院受診を行い、早急な対応を取っている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が薬管理を行ない、薬の変動ある場合は、その都度申し送りや朝のミーティング等で確認し、周知徹底を図っている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝リハビリ体操を行ない、身体を動かす働きかけをしている。毎日の食事に食物繊維の多い食材を使い、又、水分摂取が多くできるよう飲物の工夫を行なっている。		

グループホーム「仲間館・絆」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝の洗面及び毎食後の口腔ケアを行なっている。歯科医院より、口腔ケア等してもらい、異常時は往診治療を依頼している。歯磨き、うがいは、自分でできる方は自分でして頂いている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックは毎行ない、摂取量が確保されているか記録をしている。水分量は1日7～9回摂取してもらっているが、正確な量のチェックを行なっていたにもかかわらず、記録していなかった。		今後は水分量の正確なチェックの他に記録をしていきたいと思います。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルを作成、消毒、予防に気をつけ実行している。玄関入口に、手指消毒アルコール、マスクを準備。来客者には必ず手指消毒をしてもらっている入居者には食事前に手指消毒を行なっている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やフキンは漂白剤に浸し、消毒している。調理する時、石鹸、流水で手洗いをしている。週2回の買い物で新鮮な食材を用意している。冷蔵庫の整理整頓、清掃を必ず行ない、衛生管理を行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関入口には花壇をおいて季節の花が咲いている。玄関入口の看板には「お茶でもいかがですか。気軽にお立ち寄り下さい」と書いて訪問しやすい開かれた施設づくりを目指している。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ラウンジには、昔なつかしい花瓶や椅子やポスター、茶筆筒等が陳列されていて、入居者が落ち着く雰囲気づくりをしている。又、共用の空間も居心地良く過ごしていただけるような工夫をしている。		

グループホーム「仲間館・絆」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1Fにはラウンジがあり、1F2Fにはホールがあり、ソファやベンチを置き、自由に過ごせるような空間をつくっている。テレビを視聴したり、会話をされたり、思い思いに過ごされるように工夫をしている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分で使っていたタンスや仏壇等を持ってきてもらい、思い出の写真や人形等の置物等飾られ、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に空気の入れ替えの為、窓を開けたりし、又、利用者の居室一室一室に換気扇を設置している。温度調節もエアコンの使用等で調節をしている。		
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールの壁側には手摺りを設置し、安全に移動できるよう工夫している。手摺りのない空間では、誘導の声掛け、見守り介助をして安全に生活できるよう支援している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりを把握し、わかる力を活かして出来る事はなるべく自分して頂けるよう、上手な声掛け、さりげない誘導を行っている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の裏に犬を飼っており、利用者が餌を与えたりして気分転換をされている。ベランダでは、車椅子ごと日光浴を楽しんでもらっている。		

グループホーム「仲間館・絆」

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	0	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	0	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	0	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	0	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	0	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	0	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	0	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	0	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

グループホーム「仲間館・絆」

項 目		最も近い選択肢の左欄に つけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	0	ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	0	大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き生きと働いている	0	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	0	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	0	ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

会話の少ない入居者の方に、昔の歌謡曲のテープに合わせ歌っていただいたところ、手拍子を取りながら笑顔で歌われた。レクリエーションの時間には、毎日テープを流して、一緒に歌える雰囲気作りをしている。

レクリエーションの時間に、ことわざ辞典を使いながらやさしいことわざ選びクイズをしたところ、認知症のひどい入居者の方が、さっと答えを言われたことから、昔覚えたことわざ等、ちゃんと記憶に残られていることが判明。これからも積極的に取り組んでいこうと思っている。

当ホームでは年に2回、旅行を計画(春に2泊3日、秋には日帰り旅行)。希望者のみの参加であるが、体調の特別悪い方を除き、ほとんどの方が参加。今年6月には霧島、鹿児島方面に2泊3日にて実施。知覧や青島等観光。車椅子の方も職員介助にて移動。無事故で旅行を楽しんでいただきました。お土産(ご家族への)も一緒に選ばれ、満足して帰設されました。